



<http://www.nakagawa.ed.jp/esbato/>

- Magic Hour 吉村和敏写真展見学
- 避難訓練で煙体験
- 御支援ありがとうございます！（地域と連携した本校の教育）
- 不屈の精神力と創造性を持った日本からの移民（コラム）

平成 24 年 12 月 21 日
馬頭小学校
TEL0287-92-2025
FAX0287-92-2029

Magic Hour 吉村和敏写真展見学

広重美術館 昼休み見学ツアー 12 月 20 日

12 月 20 日（木）、馬頭広重美術館で開催中の「Magic Hour 吉村和敏写真展」を見学しました。「昼休み見学ツアー」とは、美術館や資料館と隣接する馬頭小学校の地の利を生かし、昼休みの時間帯を利用して、見学しようという馬頭小学校独自の企画です。昼休みの時間ですので、原則としては希望者の参加となりますが、1・2 年生は、担任引率のもと全員が見学、3 年以上は希望者となりました。児童 183 名、職員 16



【吉村和敏写真展について】

- ・ 期間…H25 年 1 月 20 日（日）まで
- ・ 場所…馬頭広重美術館
- ・ 内容…吉村さんがヨーロッパやアメリカ、白川郷などで撮影した写真 60 点
- ・ 料金…児童は無料。

ヨーロッパのクリスマスをテーマとした同氏の作品も合わせて展示されています。お子様といっしょに、ぜひ、ご覧になってください。



名での見学となりました。

写真家の吉村さんがヨーロッパやアメリカなど世界各地を旅して撮影した作品 60 点が展示されています。Magic Hour とは、夕日が沈んだ後、空に一番星が現れるまでのわずかな時間のことだそうです。空は、淡いピンクやパープルに彩られ、地上の全ての風景がいつしか最も美しい姿に生まれ変わる特別な時間です。ヨーロッパの古い教会のシルエットを彩る夕焼け、誰もいない灯台をピンクに染める夕日…。今回の吉村さんの作品は、そのような日没時の美しい風景ばかりを集めた企画展です。展示室に入るなり、「ワーッ！きれい！」「これスゴイね！オーロラだよ！」など、子どもたちから歓声が上がりました。子どもたちに感動を与えてくれた素晴らしい企画に感謝します。

避難訓練で煙体験 避難訓練実施 11 月 30 日（金）

11 月 30 日（金）、避難訓練が実施されました。今回は、火災に備えた避難訓練で、同時に、消火器を使用した初期消火（上学年が実施）と煙体験（下学年が実施）を行いました。煙は、無害で良い臭いがする防火訓練用の特別なものです。ほとんどの児童が初体験で、煙の恐さや正しい対応の仕方が学べたことと思います。

【消防署からのアドバイス】

- ・ 火災の時は、まず放送を聞き、先生の指示に従う。
- ・ 避難の原則オカシモ（おさない・かけない・しゃべらない・もどらない）を守る。
- ・ 煙を吸わないよう、ハンカチで口をふさぐ。



御支援ありがとうございます！



11月19日／お話し会(藤田浩子氏／国際的なストーリーテラー・千葉県在住)



11月27日／人権講話(藤田悦子氏／前馬頭小学校長・人権擁護委員・大内在住)



12月6日／1年生生活科・昔の遊び(各地区老人会の皆様)



12月13日／4年手話教室(大金和子氏／久那瀬在住)

馬頭小学校の教育は、本校職員だけで行われているのではなく、地域の方、関係機関の方、多くの方々に御支援をいただき実施されています。今回は、11月～12月に実施された行事から紹介したいと思います。



12月6日／クラブでフラワーアレンジメント(星義行氏／フラワーガーデン星・馬頭在住)



12月12日／4・5年国際理解教育(藤田綾子氏／県庁国際課職員・小砂在住)

不屈の精神力と創造性を持った日本からの移民

The Art of Gaman 尊厳の芸術展を見て

芸大美術館で、「The Art of Gaman 尊厳の芸術」と題する展覧会が開催されていたので見に行ってきた。

この展覧会で紹介されている作品は、太平洋戦争中のアメリカで、強制収容された日系アメリカ人たちが、厳しい生活環境の中で、道具から材料にいたるまで創意工夫しながら精魂込めて作り上げたものです。収容所は、砂漠の中などに作られていましたので、まともな材料など何もありません。ところが、どうでしょう。地中から出てきた貝殻を漆喰で固めて作った三段引出小物入れ、木の根っこをナイフ一本で削りだしたライオンの彫刻、ヒマワリの種で作ったブローチ…等々、日常生活用品から装身具、子どもの玩具に至るまで、いずれも豊かな発想と創造力あふれる精巧な芸術品となっているのです。

収容所は粗末な仮設住宅で、そこには家具などはありませんでした。椅子や机、たんす等の基本的な家具をはじめ、必要な生活用品は、廃材などをもとにした手作りです。また、自給自足の生活が求められ、家庭菜園を営むことが多かったようです。17歳以下の子どもたちが半数を占めていたとも言われ、大人たちは、子どもたちが普通の生活に近い環境で生活できる努力しました。収容されていた人たちが教師となって授業を行ったり、本の収集を呼びかけ図書館なども開いたり、音楽やスポーツなどの活動も行っていたそうです。希望を持つことが難しい環境の中で、収容者たちは芸術やスポーツ活動によって、生きる力を取り戻すことができたのです。これらの素晴らしい美術工芸作品を生み出した源は、まさに、彼らの生活を少しでも豊かにしようとする不屈の精神や創造性だったのです。

今、日本は、これまで経験したことのない、人口減少社会、低経済成長時代を迎えています。これからの子どもたちに必要な力は、まさにこのような不屈の精神と創造性ではないでしょうか。



12月11日・18日／6年ふれあい技能体験で落款作り(県技能士会の皆様)



12月17日／4年高齢者疑似体験(町社会福祉協議会の皆様)



「The Art of Gaman 尊厳の芸術展」より